

令和 2 年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	上田市	
施 設 名	上田市交流文化芸術センター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	25,539	(千円)
	公演事業	16,171 (千円)
	人材養成事業	1,777 (千円)
	普及啓発事業	7,591 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	レジデント・アーティスト『北尾亘』(ダンス2年目)による「滞在制作公演事業」	2021年1月31日※	演目: Baobab Re:born Project vol.2 「アンバランス」 出演: 河内優太郎、シュミッツ茂仁香、伊藤まこと、福島玖宇也、北尾亘 振付・構成・演出: 北尾亘 [関連プログラム] ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	160
		大スタジオ		実績値	67※
2	レジデント・アーティストによる リサイタル・シリーズ (全6公演)	2020年9月4日 他※	出演: 仲道郁代 (Pf.)、南紫音 (Vn.) & 三原未紗子 (Pf.)、田中拓也 (Sax.) & 中野翔太 (Pf.)、新倉瞳 (Vc.) & 佐藤卓史 (Pf.) [関連プログラム] アナリーゼ・ワークショップ 講師: 上記出演者	目標値	1,200
		小ホール		実績値	516※
3	群馬交響楽団 上田定期演奏会 2020 春 飯森範親 指揮 マーラー/交響曲 第5番 嬰ハ短調	2020年5月24日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	800
		大ホール		実績値	—※
4	群馬交響楽団 上田定期演奏会 2020 秋 高関健 指揮 スメタナ/連作交響詩《我が祖国》	2020年10月18日 他	曲目: スメタナ/連作交響詩《我が祖国》 指揮: 高関健 管弦楽: 群馬交響楽団 [関連プログラム] アナリーゼ・ワークショップ 講師: 高関健	目標値	800
		大ホール		実績値	557
5	青年団プロデュース公演『馬留徳三郎の一日』	2020年12月25・26日※	演目: 青年団プロデュース公演『馬留徳三郎の一日』 出演: 田村勝彦、羽場睦子、猪股俊明、山内健司、山村崇子、能島瑞穂、海津 忠、折原アキラ 作: 高山さなえ、演出: 平田オリザ [関連プログラム] ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	120
		小ホール※		実績値	138※
6	マームとジプシー公演『COCOON 憧れも、初戀も、爆撃も、死も。』	2020年8月1・2日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	300
		小ホール		実績値	—※
7	ヴォイリエック	2020年10月2~4日 (中止) ※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	300
		大スタジオ		実績値	—※
8	ハイバイ本公演『投げられやすい石』	2020年11月28・29日	演目: ハイバイ『投げられやすい石』 出演: 井上向日葵、岩男海史、町田悠宇、山脇辰哉 作・演出: 岩井秀人 [関連プログラム] ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	300
		小ホール		実績値	156※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座 & 大学や企業と連携した研修プログラム	2020 年 8 月 21 日 他	①ダンスワークショップ 講師：北尾亘（ダンサー） ②舞台技術講座 講師：サントミューゼ舞台スタッフ ③レセプションニスト講座 ④おもてなしを学ぶ講座 講師：星乃もと子	目標値	200
		大スタジオ 他		実績値	134
2	若手・中堅芸術家による実験空間『週末劇場』	2020 年 7 月 3 日 他※	週末コンサート（全 5 回） 「Friday night concerts in Blue」 出演：中澤きみ子（Vn.）、宮入柚子（Pf.） 他	目標値	200
		プロムナード		実績値	11※
3	仲道郁代 芸術監督・監修 全国連携研修プログラム 音楽がヒラク未来	2020 年 10 月～11 月 （中止）※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	30
		小ホール 他		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概 要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	レジデント・アーティスト 『岩井秀人』(演劇1年目) による「WS & 公演」	2020年6月6・7日※ 2020年7月4～12日※	演目：『ワレワレのモロモロ上田編』 (収録公演) 出演者：公募による出演者23名 監修：岩井秀人 シリーズ監修：新開麻子 撮影・編集：尾野慎太郎	目標値	入場者数：80 参加者数：60
		大スタジオ 他※		実績値	映像視聴数： 3,075回 参加者数： 延べ207
2	アーティスト・イン・レジ デンス 芸術家ふれあい事 業(音楽)	2020年10月6日 他※	[クラスコンサート(小学校18校)] 出演：南紫音(Vn.) & 三原未紗子(Pf.)、 田中拓也(Sax.) & 中野翔太(Pf.)、新 倉瞳(Vc.) & 佐藤卓史(Pf.) [ふれあいコンサート(公民館5館)] 出演：南紫音(Vn.) & 三原未紗子(Pf.)、 田中拓也(Sax.) & 中野翔太(Pf.)、新 倉瞳(Vc.) & 佐藤卓史(Pf.)	目標値	3,420 (公演： 1,320、 クラスコ ンサート 等： 2,100)
		上田市小学校18校 他		実績値	1,143※
3	《平日マチネ》ワンコイ ン・コンサート シリーズ (全6公演)	2020年8月6日 他※	[ワンコイン・コンサート] 出演：伊藤文乃(Vn.) & 高橋多佳子 (Pf.)、田村緑(Pf.)、前田啓太 (Perc.)、中井亮一(Ten.) & 瀧田亮子 (Pf.) [上田地域定住自立圏連携事業] 出演：前田啓太(Perc.)、中井亮一 (Ten.) & 瀧田亮子(Pf.)	目標値	1,800 (公演： 1,680、 アクティ ビティ 120)
		小ホール 他		実績値	732※
4	マチとつながるプロジェ クト① ブラスバンド WS & ライブ	2020年11月6日 他	出演：Black Bottom Brass Band	目標値	280 (公演： 250、WS 参加者 30)
		小ホール 他		実績値	544
5	マチとつながるプロジェ クト② マキノノゾミの演 劇の遊び	2020年10月17・18日 2020年10月24・25日 2020年10月31日 ～11月3日※	演目：横濱短編ホテル (リーディング公演) 出演者：公募による出演者12名 作・演出：マキノノゾミ	目標値	入場者数：30 参加者数120
		犀の角		実績値	入場者数： 60※ 参加者数： 延べ110 ※

6	実験的演劇工房 (岩崎正裕編)	2020 年 12 月 4～15 日 ※	演目：Be with you 出演者：市内高等学校演劇班（部）19 名 演出・監修・指導：岩崎正裕 演出補佐：橋本匡市	目標値	入場者：120 参加者：200
		大スタジオ		実績値	入場者数： 67※ 参加者数： 延べ 152
7	アーティスト・イン・レジ デンス 芸術家ふれあい 事業（ダンス）	2020 年 5 月～6 月※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	240
		小学校育館等※		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
◎ 地方自治体の文化政策とミッションの整合性 上田市の直営施設「上田市交流文化芸術センター」では、「第一次上田市総合計画」及び「文化芸術振興基本法」を踏まえた「上田市文化芸術振興に関する基本構想」の中で、『広域的な文化交流をも視野に入れた新たな拠点づくり』のための重要な役割を担う施設として位置付けられている。 その基本構想に基づき、「人にやさしい 夢と未来を紡ぐ 創造都市うへだ」の実現に向けて『育成』を基本理念に「芸術的価値」「地域的価値」「社会的価値」「経済的価値」の4つの価値を生み出していくことを目標とするミッションを設定。 劇場・音楽堂が地域の一員となることで、アートと地域が共に持続的な成長していくことを目指した。
◎ 施設の強み・特色・特徴的な取り組み 上田市政策企画部に置かれた施設として、まちづくり、観光、教育、福祉、医療などの様々な分野と連携した事業を展開。「劇場の好循環」を「地域の好循環」へと発展される活動が、社会的役割（ミッション）の達成と基本理念の実現へつながることから、市の行政施策と直結した劇場として役割を果たしている。
◎ 計画変更の事象と要因 令和2年2月末以降はコロナウイルス感染症対策のため、当初予定されていた公演や学校等でのアウトリーチ活動が困難となり、一部プログラムにおいて実施内容の変更や延期、中止など大幅な計画変更を余儀なくされた。 各事業は単体ではなく相互に作用し合う関係にあるため、その影響は大きく、今後もこのような状況が続くことを想定し、コロナ禍においても実施できるプログラムや代替案を予め用意しておくことの必要性を感じている。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
『育成』を理念に掲げた劇場として、平成26年の開館以来、実演芸術家とのネットワークや企画・制作能力を活用した事業に取り組み、その活動の継続が地域の劇場として認知度を高め、また、社会的役割への期待を高めている。
◎ ステークホルダーからの期待やニーズの把握 観客に対するアンケート調査を継続的に全主催事業で実施する他、平成30年度には外部の調査機関（株式会社ニッセイ基礎研究所）に開館以降の「事業・運営評価調査」を委託。来場者アンケートに加え、アウトリーチ担当教員、貸館利用者に対するグループインタビューや、経済波及効果及びパブリシティ効果の分析が行われ、「地域の特性や市民ニーズにあわせた事業や運営が行われ、文化芸術に興味や関心を持ち、積極的に関わる市民が増加していることが明らかになった」と報告された。また「経済波及効果は約50億円に達するなど、地域経済の活性化に寄与している」と評価された。
◎ 教育機関との連携 上田市教育委員会と連携し、アウトリーチ事業「クラスコンサート」を実施。間近でプロの芸術家の実演に触れることにより、児童の感性や想像力を育み、人間性やコミュニケーション能力を育むことにつなげたいという学校側のニーズに対し、令和2年度は上田市内の小中学校全25校中22校で26回の「クラスコンサート」を実施。1,254名の児童に対して、クラシック音楽の生演奏を届けることができた。（新型コロナウイルスの影響で3校は辞退）
◎ 青少年の育成への取り組み 『実験的演劇工房』では、市内高等学校と協議・調整のもと実施。当初の作品制作を目指した事業内容からWSに重点を置き、WSの中で生まれた参加者の思いや問いかけを中心にした構成で公演を実施。また、令和2年度の参加高校の演劇公演では無観客での実施が多く、本事業では観客を入れての公演実施を目指し関係者に絞り行った。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

公演事業

指標の設定に際しては、より適正な数値を抽出をするため、「芸術家ふれあい事業」や「提携オーケストラ」、「レジデントカンパニー事業」など、継続実施している事業での項目と数値を設定した。

① 創作

創作機能の強化			
自主企画製作公演数	H31実績	R2目標	R2実績
演劇・ダンス公演	14	19	9
音楽	22	24	10

※年度前半に中止となった公演が多く目標を達成できなかった。

② 鑑賞活動の拡大

鑑賞拡大の工夫（様式1-2-①）に基づく活動			
新規来館者の増加	H31実績	R2目標	R2実績
演劇・ダンス公演	36.8%	38.0%	37.2%
オーケストラ公演	37.6%	38.8%	16.2%

※コロナの影響で音楽事業の新規来館者数が伸びず目標値を大幅に下回った。

④ 情報発信

情報発信機能の強化			
情報誌などの発行数	H31実績	R2目標	R2実績
	2	4	0

※緊急事態宣言の発出等で取材活動が行えず、発行を断念した。

②鑑賞活動の拡大 および ③社会包摂

普及活動および社会包摂機能の強化			
関連事業実施数	H31実績	R2目標	R2実績
	31	34	22

※予定していた事業が一部中止となり目標を達成できなかった。

人材養成事業

多様なニーズに応えるための「実施プログラム数」と舞台芸術に興味が無かった人や市外・県外の人でも参加できる「環境づくり」に関する指標を設定した。

多様なプログラム		
実施プログラム数 ～体制の確保(観点③)～	R2目標	R2実績
①創作 実験的なプログラム※	1プログラム/年	0プログラム/年
②基礎講座	3プログラム/年	3プログラム/年
③芸術家の育成プログラム※	2プログラム/年	1プログラム/年

※新型コロナウイルス感染症の影響で中止、または縮小

環境づくり		
対象者の多様化	R2目標	R2実績
④大学や企業との連携	3団体	1団体
全国規模の研修プログラム	ビエンナーレ開催	

舞台芸術に興味が無かった人や市外・県外の人でも参加できる「環境づくり」に関する指標を設定した。

普及啓発事業

指標の設定に際しては、より適正な数値を抽出するため、継続性(枠組み)が確保され、かつ特色のある事業として『芸術家ふれあい事業(音楽)』と『ワンコインマチネシリーズ』を指標として設定した。

① 拡大

【環境づくり】身近な場所で開催			
アウトリーチなど 施設外プログラム数	H31実績	R2目標	R2実績
	70回	70回	33回

※新型コロナウイルス感染症の影響で施設外プログラムを大幅に縮小

② 定着

【環境づくり】定期性の確保 シリーズ企画の観客拡大			
複数回来場者の増加	H31実績	R2目標	R2実績
リサイタルシリーズ	25.1%	27.0%	39.0%
ワンコインコンサート	30.9%	32.7%	45.0%

※同シリーズに11回以上来場したことがある人

① 拡大

幅広い世代へ具体的なアプローチ			
働く世代をターゲット としたプログラム数	H31実績	R2目標	R2実績
	3	5	0

※新型コロナウイルス感染症対策のため予定されていたプログラムを中止

③ 発展

魅力的なワークショップの実践			
アナリーゼWS 参加者数	H31実績	R2目標	R2実績
	267名(5回)	300名(6回)	180名(5回)

※新型コロナウイルス感染症の影響で予定されていた1回分を中止

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業

(1) 事業期間の適切性

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度前期の公演事業が軒並み中止(延期)となり、特に制作期間が長い演劇事業においては4事業中2事業が中止。実施できた公演についても、観客の拡大のために計画された関連プログラムが実施できないなど、事業計画の大幅な変更を余儀なくされた。

コロナ禍では計画の変更が生じたとしても無理な事業運営をすることなく、まずは観客、スタッフの安全安心を担保し、その中で何ができるかを考え各事業に取り組んだ。

(2) 事業費の適切性

「公演事業」においては、特に収支のバランスを考慮した事業費の積算を行っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により生じた公演キャンセル料については、その取り扱いに戸惑う場面があった。公演によっては大きな金額となる可能性もあり、事業費の適切性を確保する意味でも、今後規準を定める必要があると考える。

人材養成事業

(1) 事業期間の適切性

「うえだアーツ・スタッフ・アカデミー 基礎講座&連携」においては、社会人が参加しやすい環境を整えるよう、事業期間や事業実施時間帯の設定を工夫。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け参加人数は低迷したが、曜日や時間、実施回数、内容については参加者からおおむね良い評価が得られた。

今後継続する中で参加者ニーズ把握に努め、講座内容の改編も含め、魅力ある講座となるよう内容の充実を図りたい。

(2) 事業費の適切性

人材養成事業においては入場料収入が見込めない事業が多く、支出の割合が高くなるため、適切な事業費となるよう支出の抑制に努めた。

「若手・中堅芸術家による実験空間『週末劇場』」においては、当初入場料を徴収する公演として計画されたが、新型コロナウイルス感染症の影響で無観客配信コンサートとなったため、計画と比較し収入面で大幅な乖離が生じた。

普及啓発事業

(1) 事業期間の適切性

アーティストが地域に一定期間滞在し、様々な芸術活動を行う「芸術家ふれあい事業」は、市内全小学校と全地区公民館との日程調整に加えて、出演者のパフォーマンスに影響が出ない適切なスケジュール設定が必要となる。平成26年度から継続実施し蓄積してきたノウハウにより、適切な事業期間の設定ができたと考える。

また、参加者数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、見込みよりも大幅に下回り、当初計画と比較して50%近い乖離が見られた。

(2) 事業費の適切性

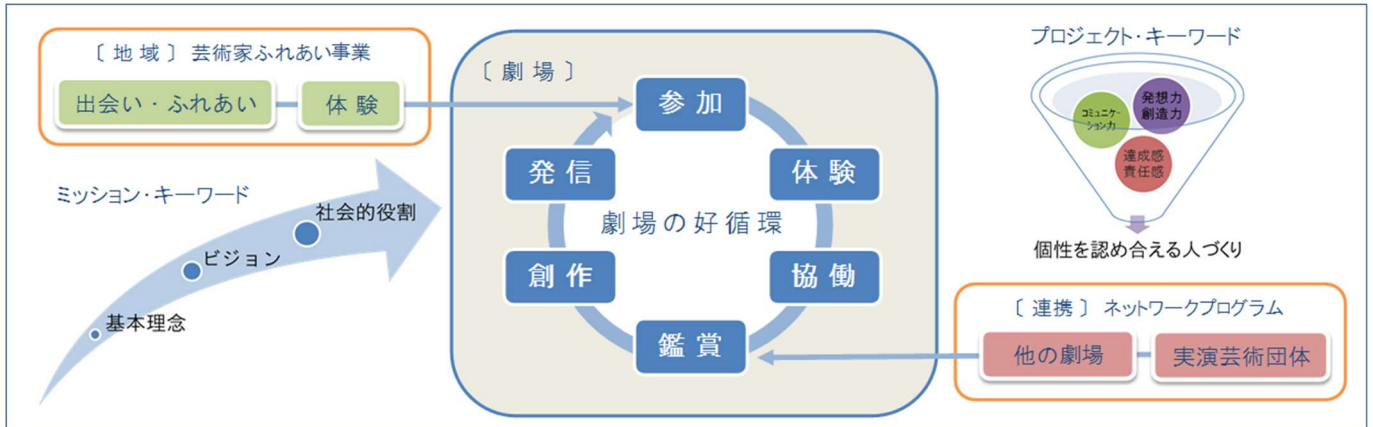
当初計画と比較し、収入、支出の両方で20%以上の大幅な乖離がみられた事業は7事業中6事業。これは新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止または延期、変更となったためである。実施できた事業については、アンケート結果の満足度指数や入場者数の分析から、適切な事業費の中で最大限の効果が得られたと考える。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

「育成」を理念に掲げる劇場として、活動の中心となる『芸術家ふれあい事業』から「参加→体験→協働→鑑賞→発信」へと繋がる劇場の好循環を生み出していくための各種事業を実施した。



◎ 提携団体との取り組み～群馬交響楽団上田定期演奏会～

プロの常設オーケストラがない長野県で、隣県の群馬県高崎市に拠点を置く「群馬交響楽団」と提携し、令和元年度から「上田定期演奏会」を毎年2回実施。（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により1回の実施）提携により関連プログラムも充実し、事前に楽団員による「室内楽演奏会」や指揮者、ソリストによる「アナリーゼ・ワークショップ」を実施するなど、定期演奏会プログラムに対する理解が広がり、「有名なオーケストラ」ということだけで足を運ぶのではなく、演奏やプログラムに対しての魅力から聴きに出かけようという、芸術体験の喜びの次の段階へ進む観客が定着した。

地域の拠点劇場として優れた舞台芸術に触れる機会を創出するための、新たなオーケストラとの提携手法ではないかと考える。

◎ アウトリーチ事業「芸術家ふれあい事業」の取り組み

平成26年の開館以来、上田市内全25校の小学校全てで毎年5年生を対象としたアウトリーチ「クラスコンサート」を継続実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は3校が辞退。市内22校で26回コンサートを開催した。これまでは音楽室などの身近な空間で、演奏家と近い距離でコミュニケーションを取りながら進めることを大切に作り上げてきた事業だったが、ソーシャルディスタンスの確保や、換気、空間の問題もあり、プログラム内容や会場を変更。実施を見送った学校に対してはサントミュージゼの小ホールで希望児童とその保護者を対象とした「呼び込み型アウトリーチ」を実施。

今後も学校と連携を続けながら、どのような形で実施できるかを話し合い、コロナ禍であっても安全に実施できる手法について、検討、確立を進めていきたい。

◎ コロナ禍における新たな取り組み ～ レジデント・アーティスト『岩井秀人』による「WS & 公演」～

当初、作家、演出家、俳優であり、劇団ハイバイ主宰でもある岩井秀人氏を講師に、芸術の持つ魅力と可能性を知ってもらうことを目的に事業を実施する予定だったが、上田市交流文化芸術センターが6月30日まで臨時休館となり、自主企画事業（公演事業）も、同年8月まで中止又は延期となっていることから、現状で実施可能な企画内容について岩井氏と協議を重ねながら実施した。特に公演は、新型コロナウイルスの状況を踏まえ、無観客による映像配信に変更。この映像配信では、地元のケーブルテレビに協力を依頼し、公演だけでなく作品の制作過程も収録し配信することで、劇場の活動が日常を取り戻していく姿を、広く周知することができた。[ユーチューブでの視聴合計数 3,075回(3/18現在)]

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

◎ 民設民営劇場との共同制作事業 ～ マチとつながるプロジェクト②マキノノゾミの演劇の遊び ～

犀の角は、市内商店街の一角に平成 28 年にオープンした、劇場スペースと宿泊施設（ゲストハウス）を持つ交流施設であり、犀の角オープン当初から上田市交流文化センターとの連携事業を実施してきた。

また、犀の角では、地域でアート活動を展開している方々を中心としたコミュニティが誕生してきており、令和 2 年度の事業では、企画段階から犀の角と協議を重ね、このコミュニティに参加している方々や長野県内及び上田市出身の演劇関係者（事業参加者並びに舞台スタッフ）を対象に事業を実施。この劇場と地域が繋がる共同制作事業によって、当市の文化芸術の発展及び普及・啓発をより深く実施することができた。

◎ ウェブサイトへの公演レポート掲載 ～ 情報の整理・蓄積・発信 ～

公演前のパブリシティ（前パブ）だけではなく、活動終了後のパブリシティ（後パブ）の重要性に注目し、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の各事業において「学ぶ」「体験する」「聴く」「観る」「インタビュー」の 5 つにジャンル分けした活動レポートをウェブサイトに掲載している。

執筆は外部のライターに委託し、客観的な視点で活動を記録。また、写真はプロのカメラマンに撮影を依頼することで、芸術性の高さや臨場感が失われることなく、その現場が切り取られた写真を掲載している。

このことにより、過去の活動を振り返ることができるだけでなく、次回公演の PR や劇場の活動を広く知っていただく貴重な資料として発信、活用されている。開館以来蓄積されたレポート数は 304 記事。

◎ 劇場の「活動」と「役割」が見える広報 ～ 劇場活動の可視化 ～

広く公開される形で行われる「公演事業」とは異なり、「人材養成事業」や「普及啓発事業」の取り組みは、特定の対象に向けてクローズで行われることも多く、特にアウトリーチ活動は学校等で実施されるため、劇場の特色として位置付けている事業にも関わらず、その活動が表に見えて来づらい状況があった。

一般の方々にもこのような活動を知っていただくために、見える形で劇場の共有スペースに活動記録やシリーズ企画の写真パネルを展示。チケットの販売につなげる広報だけではなく、限られた予算の中で劇場の「活動」と「役割」を知っていただき、「何をしている劇場なのか」芸術未経験層・無関心層に対して働きかける広報活動を積極的、継続的に行った。

◎ 地域のアーティストとの連携 ～ 若手・中堅芸術家による実験空間『週末劇場』（フライデーナイトコンサート）～

新型コロナウイルス感染症の影響で、当初予定されていたダンス作品の実施を見送ることになり、ジャンルを音楽に絞った形で若手・中堅の演奏家を公募。コロナ禍でも開催できる方法を検討した結果、無観客配信事業として実施することになった。普段公演を実施する場所ではない「プロムナード」を会場とした初のコンサートとなるため、空間の使い方や演出も含め、それぞれの演奏家とホールのスタッフが共にアイデアを出し合いプログラムを検討。配信の際には地域のケーブルテレビ局（上田ケーブルビジョン）の協力を得られたことで、ホールの事業を広く知っていただく機会になっただけでなく、若手・中堅の演奏家の育成という意味でも有益な事業となった。（全 5 回実施）

◎ これまでの企画・運営に対する受賞実績

地域の劇場としての機能を最大限に発揮した運営が行われていることが以下の受賞により対外的にも評価された。

- ・令和元年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」受賞
- ・令和元年度「地域プロモーション大賞」選考委員特別賞『箭内道彦賞』受賞

受賞作品：『Black Bottom Brass Band と巡る上田～塩田・別所地域 in Autumn』

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当館では開館以来、施設管理及び事業運営を上田市の直営で行っており、経験豊富な専門人材と一般行政職員で構成させる組織であることの特徴を最大限に活かすため、以下の人材育成方針を設定。

(1) 直営館のメリットを活かした取り組み

直営館の運営においては、一般行政職員と専門人材の意思疎通、共通理解が強く求められる。

当館では、アートマネジメント全体の責任者として、経験豊富なプロデューサーを置き、加えて音楽・演劇・ダンスの各ジャンルにも専門人材を配置。事業運営を行う中で、一般行政職員の育成を図っている。また、専門人材は一般行政職員向けの研修にも参加するなど、行政職員と専門家がそれぞれの得意分野を伸ばしていくだけではなく、異なる分野の研修会等にも積極的に参加することで相互理解を深めている。

平均勤続年数(定着率)や正規雇用率の面では、市職員として採用されているため、安定した職場環境の中で業務にあたっている。他部署と同様、定期的な人事異動が行われるが、異動した職員は当館での経験を活かし、それぞれの分野で芸術文化を市の施策に取り入れるなど、新たな広がりを見せている。

(2) 当該施設職員の人材養成の取り組み

運営に関わる人材の育成を目的に、外部研修会に積極的に参加し、劇場として継続的に組織強化に取り組んでいる。

- ・全国公立文化施設協会「アートマネジメント研修会」「技術職員研修会」
- ・一般財団法人「ステージ・ラボ」・新国立劇場主催「舞台技術運用セミナー」

※令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加を取りやめ(または研修会が中止)

(3) 当該施設職員以外の人材育成の取り組み

当館職員が企画・制作・運営のスキルを活かし、各地で行われる研修会等において講師を務め、また、その経験を当該施設運営に活かすべく一般行政職員にフィードバックしている。

- ・大学への講師派遣

公立学校法人長野大学「メディア芸術論」に非常勤講師として職員を派遣(平成 30 年度から継続)

- ・地域創造への講師派遣

ステージ・ラボや公共ホール音楽活性化事業へ講師、コーディネーターとして職員を派遣(平成 26 年度から継続)

(4) 寄付金等の外部資金の獲得に向けた取り組み

基本理念に賛同する企業から広く寄付を募る「サントミュージアパートナーズ」事業は、開始当初(平成 29 年度)3 社の協賛企業からスタートし令和 2 年度には 7 社にまで増加。今後も賛同企業を拡大させつつ、寄付だけではなく各企業の特徴を活かした活動の「連携」や「協働」にもつなげていきたいと考えている。

また、入場料収入や貸館収入などの事業収入、補助金や寄付金などの外部資金が、事業費の財源に占める割合が 30% 以上で、全国平均を大幅に上回る状況にある。

